

一般財団法人京都大学名誉教授
森下正明研究記念財団研究紀要の発行にあたりご挨拶

一般財団法人

京都大学名誉教授森下正明研究記念財団

代表理事 丸山政行



研究紀要の発行にあたり、ご投稿いただいた方々、また審査・編集をご担当いただいた方々に深く御礼を申し上げます。2008年に、森下正明の業績を記念して記念館を居宅跡に創設した後、2014年にご協力いただきました方々のお力を借り一般財団法人化にこぎ着けました。この財団は森下正明の生前の研究活動、教育活動の業績を後世に残すため運営をしております。

森下の研究分野は生態学、とりわけ個体群生物学でしたが、今回は観光学の研究紀要となっています。分野は違うのですが、森下の研究精神を引き継ぐのが目的です。森下は1978年に発行された論文集の巻頭に以下のような文章を残しています。「すでに日は暮れかけているのに私の歩かなければならない道の先は、まだまだはるか彼方にかすんでいる。今から果してどこまで辿れるか判らないけれども、足もとの明るいうちはせめて1歩でも2歩でも前へ進むことをやめずにいたいと考えているのである。それは学生時代の私に科学精神の何たるかをしらずしらずの間に教えて下さったその頃の指導教授の湯浅八郎先生や、未熟の私を常に温く導き心の支えにもなって頂いた今西錦司博士をはじめ多くの先輩友人の方々の御厚意にこたえるための、私にできるただ一つの生き方だからである。」その後も研究を続けている。

九州大学名誉教授の小野勇一先生は『種多様性指数備に対するサンプルの大きさの影響』として日本生態学会誌第四六巻(1996)に掲載された。ときに先生は83歳であった。原著論文を公表した学会始まって以来の最長老であると思う。うたいへん少なく、話題自体もホットでないせいかその後あまり引用あるいは再検討された論文はしらない。」と語っている。この研究精神を継承していくのが、研究の分野が違っていても研究者として選ぶ道であると考えであると考えています。

この研究紀要が、観光学、経営学分野において世界に向けて大きく発信できるよう、発展に努力したいと思います。皆様方の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。